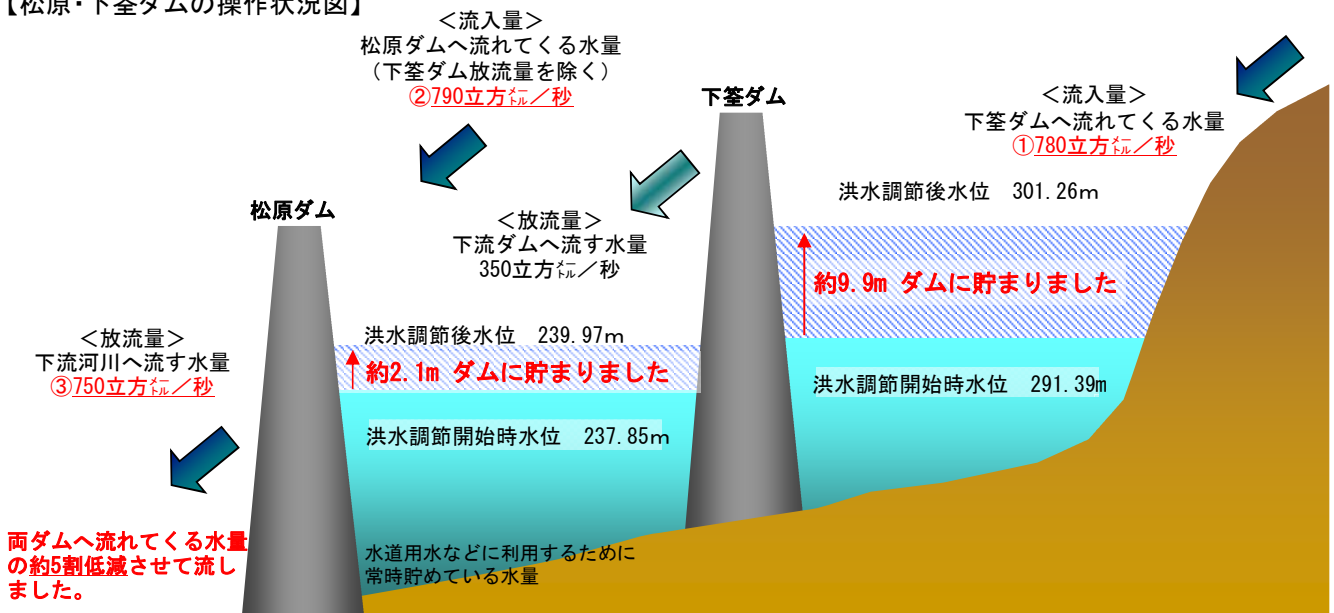


7月1日の大雨による松原・下笠ダム洪水調節の効果について

- ◆松原・下笠ダムの洪水調節の効果
ダム下流の小淵水位観測所地点において、今回の大雨による河川の最高水位を約0.60メートル低下させる効果がありました。
- ◆筑後川水系松原・下笠ダムの上流域において、6月30日12時から7月1日9時までの総雨量は193mmで、雉谷観測所において7月1日5時に1時間あたり35mmの雨量を観測し、両ダムへの最大流入量は毎秒約1570立方メートルに達しました。
- ◆松原・下笠ダムの洪水調節(ダム下流河川の増水を緩和させる操作)
松原・下笠ダムへ流れてくる水量の一部を両ダムへ貯めることで、ダム下流へ流す水量を最大で約5割低減しました。

【松原・下笠ダムの操作状況図】



＜約5割≒1-③÷(①+②)＞

※ 観測値は暫定値のため、確定値ではありません。

【松原・下笠ダムの効果】

